

平成18年度「専修学校社会人新キャリアアップ教育推進事業」成果報告書

事業名	働く女性のための社会復帰プログラム (Woman's Return Program)		
法人名	学校法人 都城コア学園		
学校名	都城コンピュータ・福祉医療専門学校		
代表者	理事長 児玉 隆次	担当者 連絡先	上村 光昭 TEL 0986-38-4811
<p>1. 事業の概要</p> <p>既婚女性労働者の特性は、「一般に長年の社会経験を重ね、結婚、家庭を持ち、出産から育児を体験し、精神的にも安定した生活を送っており、様々な状況に対処ができる」という事である。その女性の特性を活かした女性再チャレンジコースを実施する。 ここで、実施するプログラムは、3つに大別する。</p> <p>①「ワークライフバランスプログラム」は、再就職したい女性の心理的不安を解消し、家庭と仕事の両立を安心して行えるよう医療事務就業者の体験談を聞き意見交換を実施する。そして、社会復帰にあたり、「家庭」と「仕事」を考えた「ライフスタイルとキャリア設計」を行い、社会生活におけるこれからの女性の役割とは何かを考えるための研修を実施する。</p> <p>②「医療サポートスタッフ育成プログラム」は診療報酬算定技能、電子カルテなど先端の医療事務管理技能を習得させる。習得における時間は、合計108時間とする。また、講座終了後地域の医療提供施設へ送り出す事を目的とする。</p> <p>③実績報告会は、「男女共同参画社会」、「ワークライフバランス」の啓発のための講演会も含む。ここで、想定する参加対象者は、主に「地域住民」、「男女共同参画社会」推進者等とする。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生19名に対し、2級医療事務技能審査試験は、14名合格(合格率73.6%)医事コンピュータは、15名合格(合格率78.6%)となり、目的を達成できた。 ・ワークライフバランスプログラムでは、参加者13名に対し、「育児を終えた女性の子育て成功の秘訣は？(医療事務体験談)」のアンケート結果から「とても参考になった」が9名、「参考になった」が3名、「普通と感じた」が1名であった。「お母さんのライフスタイルとキャリア設計」は「とても興味が沸く内容だった」6名、「興味の沸く内容だった」5名、「普通を感じる内容だった」が2名であり、プログラムの実施はほぼ満足のいく結果であった。 ・講演会、実績報告会では、参加者に対し、男女共同参画社会の実現の必要性を認識させることが出来たが参加者のほとんどは女性であり、男性の参加者は少なかった。 <p>②事業により得られた成果</p>			

(1)ワークライフバランスプログラム

- ・育児を終えた女性の子育て成功の秘訣は？(医療事務体験談)

子育てを終えた女性に、仕事と家庭、子育ての両立の成功の秘訣を聞き、受講生に対し、社会復帰への自信を身に付けさせた。

- ・お母さんのライフスタイルとキャリア設計

社会復帰にあたりどのような働き方をするのか、家庭と社会の中での、自分の役割を見つめ直す。また、これからの自分自身の生き方を問い、キャリア設計のありかたを考えさせた。

(2)医療サポートスタッフ育成プログラム

- ・接遇マナー

社会復帰をするにあたり、マナー(礼儀、言葉遣い、接遇)、電話応対に関する知識を再習得し、社会生活に最低限必要なコミュニケーション力を身に付けさせた。

- ・医事コンピュータ

医療事務に従事する為の、医事オペレータの知識および技能を習得させた。また、医事オペレータ技能認定試験対策を行った。

- ・医療事務

診療報酬請求制度、点数算定について理解し、診療報酬明細書(レセプト)の基礎を学ぶ。また、2級医療事務技能審査試験対策を行った。

(3)講演会、実績報告会

- ・講演会

「男女共同参画社会」「女性のキャリア開発について」講演を依頼し、男女共同参画社会のあり方から、これからの女性のキャリア開発について考えた。また、キャリア開発は、個人ワークを実施した。

- ・実績報告会

事業実績を報告し、地域住民、男女共同参画社会推進者等と、これからの女性再チャレンジ支援のあり方を考えた。

③今後の活用

・医療サポートスタッフ育成プログラムについては、来年度、メディケアビジネス科で現存カリキュラムに教育ノウハウを反映させる予定である。

・ワークライフバランスプログラム、講演会実施報告会での内容は、来年度卒業年次より本校の就職教育で活用する予定である。

④次年度以降における課題・展開

1. 今後の課題

女性再チャレンジ支援を実施する際にあたり、講座時間帯や実施期間などの運用面を配慮すべきである。又、職業訓練(OJT)を入れた教育プログラムを開発していくことも視野に入れなければならないと考える。

2. 今後の展開

・医療サポートスタッフ育成プログラムについては、来年度、メディケアビジネス科で現存カリキュラムに教育ノウハウを反映させる予定である。

・ワークライフバランスプログラム、講演会実施報告会での内容は、来年度卒業年次より本校の就職教育で活用する予定である。

3. 事業の実施に関する項目

①キャリアアップ講座の実施

(1)ワークライフバランスプログラム

ワークライフバランスプログラムでは、以下の講義を実施した。

①実施日 平成18年11月18日(土)

②受講対象者 医療サポートスタッフ育成プログラムを受講している者とする。

③実施形態 講義は1日間、9:00～13:00の計4時間とし、カリキュラム準拠の講義(座学・実習)を実施した。

④実施内容

目的は育児、家庭と仕事の両立をさせるためのサポートプログラムを実施し、多くの女性が就業するにあたり、さまざまな不安や悩みが起こる事や、家庭と仕事の両立を、「家庭」、「育児」、「職場」、「地域」の4つの側面から捉え、講義する。最後に「家庭」と「仕事」を考えた「ライフスタイルとキャリア設計」を行った。

⑤受講者の反応 参加者13名に対し、「育児を終えた女性の子育て成功の秘訣は？(医療事務体験談)」のアンケート結果から「とても参考になった」が9名、「参考になった」が3名、「普通と感じた」が1名であった。「お母さんのライフスタイルとキャリア設計」は「とても興味が沸く内容だった」6名、「興味の沸く内容だった」5名、「普通を感じる内容だった」が2名であり、プログラムの実施はほぼ満足のいく結果であった。

(2)医療サポートスタッフ育成プログラム

①実施期間 平成18年10月13日～平成18年12月15日まで

(10週間28日間)

②受講対象者 既婚女性であり、社会復帰を考えている女性を主な対象とする

③実施形態 講義は、月曜日・水曜日・金曜日の13:00～17:00、1日4時間 計108時間(10週間 28日間)とし、カリキュラム準拠の講義(座学・実習)を実施した。

④実施内容 医療サポートスタッフ育成プログラムでは以下の表の通り実施した。資格取得を目標とし、実施した。目標としては、診療報酬算定技能、医事コンピュータ操作技能などの医療事務管理技能、接遇に関する知識を習得させる。また、資格取得を(2級医療事務技能審査試験、医事コンピュータ技能審査試験)目標とし、医療サポートスタッフとしての基礎スキルを身につける。

⑤受講者の反応 受講、託児費用を負担してもらえたということで、学ぶ事への意欲の向上につながった。2級医療事務技能審査試験17名が資格をすることができたが、「100時間の受講時間は短い」、「1日の講義時間が短いと答えた受講生」は12名であり、医療事務、医事コンピュータを100時間で学ぶことが大変だったことが分かった。

②その他

1. 事業の特色

資格の取得、技能の習得だけでなく、再就職することを資格の取得、技能の取得だけでなく、再就職することを様々な側面から捉え、仕事と家庭の両立に関する講義を実施内容に取り入れた点や、講演会、実績報告会で男女共同参画社会の実現の啓発を計った点である。

2. 事業実施にあたり工夫した点

資格合格率を向上させる為、医療事務の講義を終了した後に、医事コンピュータを学習させた点や受講生が安心して学習できるように、託児を取り入れた点である。